

校長室だより No.26 4月24日(金)  
城春にして草木深し(臨時休業1週間)

車での通勤途中、鮮やかな藤の花が咲いているのを見かけるような季節になりました。いつもであればこの新緑の季節をワクワクとした気持ちで迎えているところですが、今年はそうもいきません。

本校でも今日で臨時休業1週間が過ぎようとしています。せっかく新入生を迎え、新たな学期が始まったばかりでのこの状況は無念としか言い様がありません。生徒の楽しい声が絶えなかった校舎は本当にひっそりと静まりかえっています。

「城春にして草木深し」は高校生であれば必ず国語の授業で習うであろう中国の唐時代の詩人杜甫の「春望」の一節です。

国破れて山河あり  
城春にして草木深し

時に感じては花にも涙を<sup>そそ</sup>濺ぎ  
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

ほうかさんげつ  
烽火三月に連なり  
かしよばんきん あた  
家書万金に抵る

白頭搔けば更に短く  
す 渾べて簪に勝へざらんと欲す



この漢詩は当時の戦乱の世の状況を詠ったものですが、「非常事態」といわれる今の状況でこの漢詩がふと思い出されました。

このような状況の中でも自然の営みは変わることなく、その美しさを私たちに見せてくれています。が、それを眺める私たちの心は平穏ではられません。遙か1200年以上前の詩人の心情が今、本当に理解できるような気がします。

ほうかさんげつ かしよばんきん あた  
烽火三月に連なり 家書万金に抵る  
戦ののろしは3ヶ月も続いており 家族からの手紙は万金に値するほどだ



現在、担任を中心に生徒たちに健康状態や学習状況を確認する電話連絡をしているところです。お互い元気な声を聞かせ合い、励まし合ってこの難局を乗り越えていきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

学校では授業の再開に向け、教員も様々な状況を想定した準備を進めています。一刻も早い学校再開と新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。

※ある教室の黒板にはもう5月7日の日付と日直の名前が書いてありました(\*^\_^\*)